

登山月報

第25回リードジャパンカップを開催	1
平成23年度国際委員総会報告	2
平成23年度指導委員総会報告	3
Mountain World 第32回	7
自然保護常任委員研修会報告	8
JMA、寄贈図書	9
編集後記	12

第25回リードジャパンカップ 山口県セミナーパークで開催 男子・安間佐千、女子・小田桃花選手が優勝

6月4日、5日、10月に国体開催をひかえる山口県セミナーパークにおいて、第25回となるリードジャパンカップが行われた。参加は男子77名、女子44名。7月中旬にイタリア・アルコで開催される世界選手権への切符をかけた大会でもある。

男子には“世界の”安間佐千が出場。「だれがサチに迫れるか」が注目されることとなった。予選では松島暁人と樋口純裕がみごと完登しなんとか安間に食らいつく。しかし翌日はまさに安間のひとり舞台となってしまった。準決勝、決勝をただひとり完登し、別格の強さを見せつけた。特筆すべきはユースの是永敬一郎で、リーチのハンディをものともせず6位に入賞した。

女子は“世界のユース”小田桃花が本命。決勝こそ完登を逃したが、ほぼ独壇場の展開となった。コンペをやるたびにその“低年齢化”が加速する女子だが、今回は8人の決勝進出者のうちなんと7名がユース。そういった状況ではむしろただひとり大人で、しかも3位という好成績をあげた榊原佑子をほめるべきかもしれない。

(写真と文=北山真)





【リザルト】

男子	女子
1 安間 佐千	1 小田 桃花
2 樋口 純裕	2 安田あとり
3 松島 暁人	3 榊原 佑子
4 渡辺 数馬	4 飯田あづみ
5 新田 龍海	5 大田 理娑
6 是永敬一郎	6 尾上 彩
7 伊東 秀和	7 竹内 彩佳
8 羽鎌田直人	8 義村 萌

平成23年度国際委員総会、海外登山遭難対策研究会報告

平成23年度国際委員総会及び第30回海外登山遭難対策研究会は、6月18、19日、山梨県の南アルプス市芦安山岳館で行われた。

初日の委員総会には18人が出席した他、翌日の研究会の参加者も多数参加した。内藤副会長の挨拶で始まり、22年度の事業報告、収支報告、23年度事業予定、収支予算が青木委員長から提案されそれぞれ承認された。この後、山梨県山岳連盟が行った中国四川省登山の一部にある牛心山南東壁初登攀報



告が亀田博生氏より行われた。

翌日は海外登山遭難対策研究会となり北は北海道、西は山口県の42名が参加した。急遽駆けつけた神崎会長の挨拶に始まり、気象予報士の猪熊隆之氏が「世界の山岳気象と最近の傾向」という演題でヒマラヤの天候までを予想する興味深い講演がなされた。おりしもこの朝、NHKのグレートヒマラヤエベレスト登頂の番組紹介を行っていた。NHK隊への気象情報提供は猪熊予報士が行っていた。すば



らしい映像に違いない。続いて、日本ヒマラヤ協会顧問の山森欣一氏が「日本のヒマラヤ登山の進展」という演題で講演した。

すべて内容の濃い講演となり充実した研究会となった。最後に来年開催地の神奈川県山岳連盟から

挨拶があり、閉会となった。

今回は芦安山岳館のご好意と山梨県山岳連盟の協力で無事終了する事ができました。ありがとうございました。

平成23年度指導委員総会報告

《平成23年6月11日》

【開会式（蛭田常任）】

★日山協会長挨拶：（神崎会長）

お集まりの方々の日山協の力。5月15日田中会長より引継ぎしました神崎です。今度の人事で副会長4名はどなたが会長になってもおかしくない方。

尾形事務局長も大変すばらしい方です。30年前、常務理事（国際部）を10年務めたが指導とは交流がなかった。指導委員会、遭難対策委員会との交流を含めて行きたい。登山人口1千万人色々なジャンルの中で指導する必要がある。今後も皆様のお力をもって、活躍していただきたい。

★指導委員長挨拶：（永井委員長）

出席率がよく、部屋が狭く感じるほどです。

東日本の震災から3ヶ月経ちますが、東北の方々も参加していただきました。ありがとうございました。

25年から義務研修実績の体協への入力必須化、国体監督の指導員資格の問題。スポーツクライミングの指導者制度もまだ、軌道に乗っているとは言えない。日山協自体も公益法人として方向転換の時期にあり、指導委員会も変わっていかねばならない。2日間しっかり、研修してほしい。

【オリエンテーション（蛭田常任）】

スポーツクライミングの35、43 p差し替え。

岐阜、追加で参加45人。指導常任、会長他含めて63人の参加。タイムスケジュールの説明。

【基調課題】

★指導委員会の新しい方向性：（永井委員長）

日山協は25年から公益社団法人になる。公益目的で事業を推進していかねばいけない。

今までは日山協・都道府県岳連の組織の中だけでよかったが、今後は不特定多数の方々の為の組織に転換していかねばならない。



指導員も日山協の中で、指導、養成していれば良かったが、今後は組織外も対象としなければならない。アルパイン、スポーツクライミングの2本立てで考えなければならない。スポーツクライミングに関して、指導委員会で作成し、一段落したところ今後は、ハイキングインストラクターについて取り組んでいかねばならないが不特定多数の方々を指導していくとなると、インストラクターではなく、リーダーとして育成していかねばならないのではないかと考えています。

トレイルランの指導者制度も作ってほしいとの要望もある。ある程度、ハイキングリーダーが指導者制度の基礎資格として確定すれば、多方面に対応できる可能性ができてくる。

今年度中に考えて、まとめていきたい。

UIAAの制度とのコンタクトもうまく合致させる

方向が見えてくるのではと考えています。

国立登山研修所との協業も考えていかなければならない。中高年講習会と一緒にやっていくことも考えられる。ガイドの方々にも教師の資格を取っていただき、ジムの方々にはスポーツクライミングの教師の資格を取っていただくと UIAA に沿った形になると考えています。

ハイキングリーダーは日体協ではなく日山協の資格として、考えている。日山協独自の資格としてやっていく事で、指導者の増加も期待できる。

これらは、指導委員会も今年度、来年度の大変な事業になっていくと考えています。

★公認指導者更新登録に伴う義務研修全体システム：(蛭田、石原)

指導者制度の中で大きく変わったところは義務研修を受けないと登録継続できないということ。(手続きをしないと継続できない)

4年間の内に更新資格継続の手続きをするには、有効期限が切れる6ヶ月前まで講習を受けて、指導委員会に報告する必要がある。どんな研修を受けなければならないか。

(中央競技団体が実施、認める研修会) 合計3時間以上の研修(今までは4.5時間)

平成25年10月から完全実施。

資格復活申請の制度が大きく変わる。有効期限から4年間すぎると復活できなかったが、平成23年11月申請から新しい制度になる(資格再登録制度と名称変更)24年10月1日登録より変更することになりました。

申請要件：現行どおり

申請先：都道府県体育協会

審査料は無いが、登録料として3000円必要(日体協)

競技団体が審査料をとるか任されているが考慮中。

添付書類に審査申請書と参加証明書

セディナとの業務提携は今年4月で終了する。

クレジット付は有効期限まで、それ以外は別の会社から今後クレジット無しで発行。今年の4月から引き落としされなくなるが、次のカードは未定。

10月更新の方は、振込み用紙が送られてくる

平成24年4月新登録管理システムに変更

まだ、決定ではありませんがWEBより個人のIDとパスワードでログイン住所変更、登録、実績の確認が出来るようになる予定。

直接、義務研修の実績を入力できる可能性が高い。

日山協、都道府県の研修が見れるようになる可能性もある。

★義務研修実績登録、指導者一覧の確認(石原常任)

登録実績入力に最新の更新研修に○、その前の参加は○、講師は□

ID：パスワードは連絡したものを入力

★最近の氷雪技術研修会の流れについて(堤常任)

制動確保について、器具を使うやり方、肩がらみ等でやる方法など様々ですが、肩がらみ(夏)スタンディングアックスビレー(冬)で実施していますが、その後脱出までやる流れになってきています。8.5mmでは、力のない方、女性等止まらない可能性がある(詳細は資料参照)。

全国の大半ができて、指導できるレベルでないといけない。皆さんのところでこういうやり方はどうかとの方法がありましたら提案してください。検証いたします。

★最新の登山技術研修会の流れ(切嶋常任)

器具を使った制動確保、セルフレスキューでフリクションノットを使うときのやり方、ロープをつなぐときのこぶの通過(資料参照)

★日山協公認ハイキングリーダー(インストラクター)制度について(山本常任)

どの名称がいいのかは今後検討。

今回は大阪府と山岳連盟で独自に取り組んだものをもとにたたき台として提案いたします。

大阪府でも本格的なアルパインの活動をしているのは、2割に満たない。大半はハイキングが主体です。その方々のリーダーを養成することが必要になってきていると思います。底辺を広げていくことが大事と考えております。日赤の救命救急講習会に参加し終了すること、技術・体力確認、論文、面談で知識の確認等を行い独自の資格認定を行っている。登録料、更新、規約についても検討していかなければならない。

労山、東京都岳連、大阪府岳連の情報も参考にしながら考えていきたいと考えていますので、皆さんからもご協力・ご意見をお願い致します。

Q：各都道府県に投げただけで、良いのかという問題、どういう事業が良いのか、今後の課題になると考えますが、例えば、登山研修所と協業していくとか、広く一般の方々にも普及していくには問題が出てくると考えます(西内氏)

Q：検定員の問題として指導員資格を持った方にやってもらう等も検討いただきたい(栃木)

・収益があがる講習会でないと、運営が立ち行かなくなる。指導員の活躍の場を含めて、考えていただきたい。(永井委員長)

・ハイキングリーダーと指導員との違い、考え方は?(新潟)

・もっとやさしくしてロープを使わない、雪山へは行かないという制度と考えている。スポーツリー

ダー資格も必要ない。皆さんの考え方も今後取り入れていきたいと思えます。(永井委員長)

★懸垂下降時のロープ結束強度試験について(瀧本常任)

懸垂下降用の結束方法として、古くからダブルフィッシャーマンノットが用いられてきたが、オーバーハンドノット、エイトノットが最近広く使われてきた状況下で検証した結果を報告いたします。(資料参照)

エイト、オーバーハンドともにテールを長く取り、結び目をしっかり締めれば、解けることはないだろう。止め結びを付け加えることが重要と考えます。・ロープは同径でないとダメですが、違う条件のロープどうしでの検討を行ってほしい(神奈川)

★スポーツクライミング指導員養成講習会、中央開催予定 千葉、兵庫

地方開催の場合、都道府県の体育協会と連絡を取り合ってもらいたい事と地方開催で、中央の応援が必要なところは早めに連絡いただきたい。ブロック間の調整もお願いしたい。

《平成 23 年 6 月 12 日》

司会(石原常任)

平成 22 年度指導委員会事業報告(鈴木常任)
(資料参照)

平成 23 年度指導委員会事業計画(鈴木常任)
(資料参照)

Q: スポーツクライミング上級指導員、主任検定員の養成講習会は?

A: 今年は、指導員養成のみ実施。来年以降は、指導員、上級指導員ともに、各都道府県にお任せしたい。

★平成 23 年度指導委員会が実施する義務研修会(蛭田常任)(資料参照)

★登攀研修会および主任検定員養成講習会の平成 23 年度開催県(野村常任)

(宮城で決定) 10 月 15、16 日

・平成 24 年度実施提案(三重で検討いただく)

★S C 指導員養成講習会について(永井委員長)

兵庫開催は、ほぼ定員の応募あり、千葉はまだ不足、参加の意思があれば早急に、日山協に申し出ていただきたい。平成 25 年の国体の監督資格に間に合わせるには、重要な要件になるが競技委員会に今後運営をお願いしたいと考えている。今後、話をつめていきます。

規約・規程集の改定[平成 23 年度版](瀧本常任) 今年は詳細まで、かなり分かりやすくするために手を入れております。(資料参照)

変更点等を確認お願い致します。

★A C 上級指導員検定基準改定(瀧本常任)

★S C 指導員検定基準(平成 23 年度暫定版)発行
S C 上級指導員検定基準改定(平成 23 年度版)(資料参照)(井納常任)

Q: 指導員の履歴について、ジムのみ登っている人の履歴の書き方は?

A: ジムのレベルを記入いただいて結構です。実力を見れば判断できると考えているのと指導法も重要な点と考えています。

★日本体育協会・スポーツ指導者オフィシャルブック改定(資料参照)(永井委員長)

23 年度項目番号等改定しておりますので、新しいものに準じて申請しないと、都道府県体育協会は対応していただけないので、注意していただきたい。

Q: 受講料について、日本体育協会の納入分しか書いていないので、分かりづらい。

A: 工夫しないとイケないとは考えています。

★山岳指導者、指導要綱改定(小野寺常任)(資料参照)

第二版となっており 8 年ぶりに改定となっております。用語を時代の流れに合わせて変えています。スポーツクライミングについては全面改定。(改定の理由等については参考文献をもとにしています)

★主任検定員の認定について(野村常任)

主任検定員の不在都道府県もかなりあり、問題点もありますが、課題もあり検討していく必要もあります。現状、積雪期に登攀研修会時にどちらかでも OK にしております。

★主任検定員制度の見直し(案)(鈴木常任)

上級指導員の高齢化、論文の免除も検討しております。指導員養成については、岩と雪の領域が少ないことから、指導員の資格でも主任検定員資格を取れる方向も検討中です。(あくまでアルパインクライミングのみ)

★平成 23 年度の日本体育協会体育功労者 中央競技団体推薦案(永井委員長)

伊澤則昭さん(長野県)、湯浅誠二さん(京都府) 松下征文さん(滋賀県)、3 名推薦いたします。

★ブロック別意見交換会

S C、A C 指導者養成講習会について

○A ブロック(北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)

(常任担当: 永井、切嶋、鈴木一)

東北・北海道では唯一北海道が頑張っていて S C では主任検定委員が 4 名居る。

A C でも 2 名が居ます。現在 18 名が指導員育成講習会を終わっている。

S C では青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島ではまずクライミングを行う壁そのものが少ない、ま

たクライミング人口が少なく、その中での指導者希望者がなかなか出てこないのが実情。

来年度に宮城で主任検定員育成講習会を実施し、各県が協力して行く事にした。

青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島のアCの状態はアC人口の高年齢化が進みアCを行う人口そのものが居ないのが現状です。

S C、アCの人たちの交流がうまく行えない、岳連ばなれも拍車を掛けている。

○Bブロック（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟）

（常任担当：鈴木由、瀧本、野村、蛭田）

アCの資格そのものが必要性のある一般の人は少ない。育っていかない。神奈川でさえ、アCとS Cを毎年開催は厳しい状況。東京は日本フリークライミング協会で担ってもらえる。

山岳会自体若い層が少ないところは声もあがらない。時間とお金をかけて、指導員資格を持っても活用されていないことも問題がある。益々、資格失効する可能性がある。持ったがために監督をしないといけなくなり、あえて取らない方もいる。

埼玉県もある程度S Cの資格を中心的な方は取得したが、平成23年度は行事をこなすのが精一杯で養成講習会まで、手が回らない状況です。

東京は、アCの指導員養成講習会は毎年実施しているが、上級は毎年実施できない。

群馬でもしばらく開催していなかった。10年近いスパンでないと集まらない。

指導員の高齢化で、上級の指導をできる人材がいない、少ない。新潟も国体中心でここにきて、急に実施せざる得ない状況。S Cも若干希望者はいるが、指導委員会だけでは運営できない。北信越で連携して運営するしかないとも考えている。

茨城は2年目にアC9名養成講習会実施。受講者の人数集めが大変。6人くらい集まればとも考えて

いる。上級は難しい。講師の人材も少なく、同じ方をお願いしている状況です。

長野は毎年総会で議題には出すが、応募が少ない。山岳総合センターでのリーダーコース受講者に一本釣りをお願いしている。

※実技は中央で、机上は各岳連での実施はどうか？

指導員資格の是非（メリット）から問題になる。

S Cについてはおこなっている

資格を取ろうと思っている人材自体少ないと地方開催だろうが、中央開催だろうが難しい状況。

○Cブロック（富山、石川、福井、静岡、愛知、三重、岐阜、滋賀、京都、大阪）

（常任担当：小野寺、堤、山本、大西）

近畿はほぼブロック単位で毎年開催できる傾向にある。北陸に関しては指導委員会のスタッフ自体も少ない。東海も今後連携していく必要がある。

S Cは実施しなければならない状況下ですが、アCはメリットがないとの共通課題がある。

○Dブロック（鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）

（常任担当：瀧根、石原、井納）

何処の都道府県でも高齢化の問題。ブロック単位での開催も今後前向きに実施する意見が出た。福岡では山にかかわらず少年でスポーツを推進していくところみも実施中。

【閉会式】

神崎会長

いろんな課題、提案、連携について、聞かせていただきました。みんなで力をあわせて、今後協力いただきたいと考えています。

瀧本副委員長

連携ということが今後キーになると思います。今後とも指導委員会の活動にご尽力お願い致します。



第32回 Mountain World

ラトックⅢ峰西壁初登攀

池田常道

カラコルムのラトック山群は、日本人クライマーにとって、とりわけなじみ深い存在だといえる。隣接するバインター・ブラック（オーガ）もあわせて、主要ピークに対する初期の挑戦はすべて日本隊によって行われたうえに、1979年にラトックⅠ峰（7145m）とⅢ峰（6949m）、80年に同Ⅳ峰（6456m）の初登頂をモノにしてきた。ちなみにバインター・ブラック（7285m）はイギリス隊、ラトックⅡ峰（7108m）はイタリア隊が77年に初登頂している。

ラトックⅢ峰の初登頂は、寺西洋治隊長以下6人の広島山の会チームによって、20日間という短期間で行われた。4つのキャンプを進める包囲法を採用しながら、そのスピードは驚異的だった。寺西隊長はその報告（岩と雪71号）で、「持てる力の3分の1ぐらいしか発揮していない」と書いたくらいだ。彼らがたどった南西稜はその後88年のイタリア隊によってアルパイン・スタイルで再登され（ED+、VI 5.10 A2）、質の高さと客観的危険の少なさを評価されている。

この南西稜の左側に切れ落ちているのが西壁だ。高距1700mを誇る圧倒的な傾斜の壁で、雪崩と落石の危険にさらされている。88年の隊もここを目標にしていたが、氷雪におおわれたコンディションを嫌って南西稜を登った。

92年と98年のアメリカ隊がそれぞれ6350m、6050mで敗退したあと2000年に挑んだのが、アレクサンドル・オディンツォフ率いるロシア隊だった。世界の大岩壁にロシア・ルートを開こうという「ビッグウォール・プロジェクト」を95年に立ち上げたオディンツォフは、4番目のターゲットにこの壁をえらんだのだった。しかし、5800mを越えたところで悪天候に妨げられ、落石で1名が負傷するなどで敗退に終わった。オディンツォフは翌年にも挑んだが、カプセル・スタイルで6200mまで登ったところに落石が襲い、イゴール・バリーヒンがユマーリングしていたロープを切断されて墜死するという悲劇に見舞われ、再び敗退した。2008年にはワレリー・シャマロ以下6人のロシア隊が挑んだが、失



ラトックⅢ峰西壁ロシア隊のルートとピバーク地。
Mountain.ru 提供

敗に終わった。

その後ジャヌー北壁直登やグレート・トランゴなどに成功して8つのロシア・ルートを開いたオディンツォフだが、経済事情の悪化もあってしばらく休止を余儀なくされ、今年になってひさびさにラトックへの挑戦を再開した。メンバーはエフゲニー・ドミトリエンコ、イワン・ドジデフ、アレクサンドル・ロンチンスキーに前2回の遠征に参加している医師のミハイル・バトキンを加えた総勢5人。6月10日に登攀をはじめ、ポータレッジで9カ所のキャンプを設営しながら、前2回と同じ西壁左寄りのラインにルートを伸ばした末に25日、医師を除く4人が頂上に立った。オディンツォフの執念は、じつに10年越しに実を結んだのだった。

ちなみに、これまで8回のビッグウォール・プロジェクトの成果は以下のとおり。パミーロ・アライの4810m峰、同アク・スウ（5217m）、ノルウェイのトロール・ウォール（1742m）、インドのパティラティⅢ峰（6454m）、カラコルムのグレート・トランゴ（6225m）、バフィン島のグレートセイル・ピーク（1617m）、ジャヌー（7710m）、キルギスのキジル・アスケル（5842m）。アルパイン・スタイルではないが、つねに困難なルートを追及するその姿勢と足かけ16年にわたって登りつづけてきた執念は、たしかに現代アルピニズムの1ページに記憶されるものにはちがいない。

自然保護常任委員研修会（栗駒山）

6月17(夜行)～19日、2011年度自然保護常任委員研修会が震災の爪痕色濃い栗駒山で行われた。

標高1,627メートル、東北地方のほぼ中央、宮城・岩手・秋田の三県にまたがり円錐状の裾野をもつコニーデ型火山の栗駒山は、「国定公園栗駒」の中核をなし、150種にもおよぶ高山植物群落、ブナの原生林や湿原、溪谷等々貴重な自然が手付かずのまま残され、野生鳥獣なども数多く生息している。その「自然」はこの震災でどんな影響を受けたか。今回、研修を『震災被災県の山岳に出掛け、自然の状況をそれぞれの目で実地に確かめるとともに、地元応援の意味を含め、本研修を実施する』と位置づけ、現状視察の常任委員等16名による実登となった。

18日、栗駒山の宮城県側からのメインの登山口のイワカガミ平で宮城岳連の濱田久晴会長らと合流、午前7時40分過ぎ中央コースにとりつく。登山道はコンクリートで固められ、ほぼ一直線に延びていて、入山者の多さを物語っている。ひたすら高度を稼ぎ、道が土や砂利に変わる頃、前方の視界も開けて雪渓を抱く栗駒山が見えてきた。また2度の震災の影響で現在入山禁止となっている表掛コースも間近に捉えられ、荒れた沢筋の様子が窺えた。雪解けの登山道を彩るイワカガミなど高山植物の群落に歓声を上げながら、9時山頂着。帰路は雪渓が多く残る東栗駒コースを辿る。新湯沢の徒渉点から下部は非常に悪路となっていて、ドロコになりながらも無事にイワカガミ平に戻った。さらにニッコウキスゲやワタスゲ、レンゲツツジが美しい湿原「世界谷地」を巡り、初日の研修を終えた。

栗駒山を廻るいくつかのコースのうち、まだ再開の目処も立たない所もあると聴くが、今回歩いた中央・東栗駒コースに限って言えば、コース整備も進み、季節の移ろいを伝える花々や鳥の音が、栗駒山

の自然の再生を証明し、私たちの目や耳を楽しませてくれた。

今回の宿泊地は新湯温泉くりこま荘。そこは、2008年6月14日に岩手県内陸南部で発生したM7.2、最大震度6強を記録した岩手・宮城内陸地震で、土石流の呑み込まれた駒の湯温泉から200m程の高台に位置し、災害救助隊の休憩所ともなり、また、栗駒山山岳指導隊の事務所も置かれ復興の活動拠点にもなっていた。復興の兆しが見えてきた矢先の3.11東日本大震災、この未曾有の2度にわたる大災害を生き抜いたご主人菅原次男氏からお話を伺うことも今研修の大きな目的の一つでもあった。

また、ここに宮城岳連浅野誠治事務局長が同宿して下さり、岩手・宮城内陸地震の貴重なビデオを見せて頂きながら、被災地では日々の生活が不自由な中、それ以外でも「自粛」が美德とされる風潮の中、山に登ること自体にある種の後ろめたさを感じるとの率直な意見や「山」を守る活動の困難さを語り合った。

翌朝、復興作業の進む駒ノ湯の跡地周辺を歩き、凄まじい崩落を物語るまっすぐ切れ落ちる断面に言葉を使い、くりこま荘のご主人の言われた「僅かな立地の違いが生死を分けた」ことを実感させられた。また街に通じる県道42号線も至る所土砂崩れ復旧工事現場となっており、未だ手つかずの崩落現場も数知れない。大震災の恐ろしさを目の当たりにしながら帰路についた。

今回、ご自身も被災されたにも拘わらず研修にご参加下さった宮城県山岳連濱田会長、浅野事務局長に心から感謝申し上げます。

一日も早い復興をお祈り申し上げますとともに、私たちにできる「支援」を息長く続けていくことお約束します。
(小高令子 記)



研修参加者、宿舎のくりこま荘前にて復興工事最中の先の地震の崩落地

日時 6月9日(木) 17:30～21:00
場所 岸記念体育会館 504会議室
出席者 神崎会長
内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、仙石、佐藤、石倉、高山、水島、北山、相良、谷口、寺内、永井、堀井各常務理事(以上、18名出席)

1. 専門委員会動静

5月常務理事会以降
(5月6日～6月9日)

[報告]

(1)指導委員会

5月9日(木) 出席者10名
ア 4月の議事録確認について
イ 平成22年度決算理事会・23年度通常総会について
ウ 事務処理報告
・指導員、上級指導員の修了証発行について
・主任検定員認定証の発行について
・指導員総会の発送文書について
エ 指導要項(案)について
最終案決定、400部印刷
オ SC指導員検定基準について
・平成23年度暫定版上梓
・SC上級指導員検定基準の改訂版作成中
カ SC指導員養成講習会について
キ 宮城開催については、指導員総会で結論
ク 公認スポーツ指導者表彰候補者推薦について
松下征文(滋賀)、前川朝夫(静岡)
ケ 公認スポーツ指導者育成事業事務担当者会議について
5/19～20、小野寺、瀧本、蛭田委員出席
コ 指導員のボランティア登録に

ついて
サ 指導員、上級指導員の認定について
指導員:埼玉 7名、岩手 2名
上級指導員:埼玉 16名
(2)国際委員会
5月10日(火) 出席者8名
ア 平成23年度委員総会・海外登山遭難対策研究会について
・6/18～19、南アルプス市芦安山岳館
・常任委員の参加と役割分担の確認
イ 平成23年度国際委員会の人事案件について
ウ UAAA理事会(6/18、モンゴル・ウランバートル)について
エ UAAA合同登山(モンゴル)について
(3)広報委員会
5月11日(水) 出席者6名
ア 『登山月報』5月号編集について
・田中会長退任の挨拶
・競技委員総会報告
・Mountain World
・JMA
・東日本大震災義援募金協力者芳名
(4)普及委員会
5月11日(水) 出席者6名
ア 23年度「ジュニア登山教室in立山」募集要項及び協賛関係について
イ 中高年安全登山指導者講習会の講習内容について
(5)自然保護委員会
5月17日(火) 出席者14名
ア 自然保護委員会の新体制について
イ 山岳トイレの取組み(山はみんなの宝)について
ウ トレラン・アンケートの実施時期について
エ 山岳団体自然環境連絡会
平成23年度第2回連絡会報告(5/13、労山)

オ 自然保護委員総会について
・10/15～16、鳥取
カ 常任委員研修会について
・6/18～19、栗駒(須川)岳
キ その他
・東電の尾瀬売却問題について
・東日本応援フォーラム「東北の自然と山を語る」開催について
(6)競技委員会
5月19日(木) 出席者9名
ア 5月常務理事会報告
国体山岳競技規則集の一部改訂(内規部分)が理事会議案として承認された
イ 5/15決算理事会・通常総会報告
・国体山岳競技規則集の一部改訂(内規部分)が承認された
・Rock Climbing OSAKA JAPA 2011 namBa HIPS CUPに関する大阪府岳連からの伺いについて
ウ リード・ジャパンカップ(6/4～5、山口)の進捗状況について
エ ルート・セッター全国研修会(8/10～12、富山)の開催要項について
オ ジュニア・オリンピックカップ(8/14～16、富山)の開催要項について
カ 第2回全国高校生クライミング選手権大会について
・全国高体連の共催事業が決定。名称に「選抜」が入る。
キ トレラン小委員会の進捗状況について
ク 国体後催催の準備状況について
・岐阜:抽選会の日程(希望日)連絡
・東京:リハ大会(6月第1週)、本国体(10月、金土日)
ケ 公益法人化に向けた競技委員会の組織について
コ 競技委員会内の仕事分担について

寄贈図書

● 雑 誌 ●

山と溪谷社 『山と溪谷』No.915 7月号
東京新聞 『岳人』No.795 7月号

● 会 報 ●

大阪青雲会
兵庫県山岳連盟

(財)健康・体力づくり事業財団
新潟県山岳協会
横浜山岳会
大韓山岳聯盟
(公財)日本体育協会
(財)日本ゲートボール連合
岩手県山岳協会 参与会
国立公園協会
(社)日本武術太極拳連盟
(財)全日本ボウリング協会

(社)姫路観光コンベンションセンター
神奈川県山岳連盟
埼玉県山岳連盟
長野県山岳協会
日本勤労者山岳連盟
(公財)日本体育協会日本スポーツ少年団
やまびこ山想会
高校生新聞社
日本山岳会
日本山岳会自然保護委員会

ベルニナ山岳会
近畿山岳愛好会
日本ヒマラヤ協会
スポーツ振興センター 国立登山研修所
前橋観光コンベンション協会
東京野歩路会
日本山岳写真協会
信州大学山岳科学総合研究所

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

遭難者数 **2,085** 人

死者・行方不明者 **317** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

【東日本大地震義援募金協力者ご芳名】

(7月6日現在、敬称略)

228,700円：神奈川山岳連盟、53,000円：群馬山岳連盟、3万円：岡山山岳連盟、29,000円：日南山の会（宮崎）、1万円：熊本山岳連盟
 （総額：3,416,970円）

- (13) 故大森薫雄氏偲ぶ会
 5月28日(土)
 於：慈恵会医科大学高木会館2号館南講堂 内藤副会長
- (14) JOC 選手強化委託事業説明会
 5月30日(月)
 於：岸記念体育会館 中川事務局長
- (15) 東京都山岳連盟との協議
 5月31日(火)
 於：岸記念体育会館 神崎会長、内藤、八木原、松元副会長、尾形専務理事
- (16) 長野県山岳協会との協議
 6月2日(木)
 於：長野市 神崎会長
- (17) 日体協競技団体評議員連合会総会
 6月3日(金)
 於：岸記念体育会館 尾形専務理事
- (18) 山口国体第2回基準会議
 6月3日(金)～5日(日)
 於：山口県セミナーパーク 神崎会長、高山、寺内、北山常務理事
- (19) 第25回リード・ジャパンカップ（山口国体リハーサル大会）
 6月4日(土)～5日(日)
 於：山口県セミナーパーク 神崎会長、高山、寺内、北山常務理事
- (20) 国立登山研修所専門調査委員会
 6月6日(月)～7日(火)
 於：富山・国立登山研修所 尾形専務理事

3. 議事

- (1) 平成23年度5月常務理事会議事録の承認について（承認）
- (2) 平成22年度決算理事会議事録承認について（承認）
- (3) 平成23年度通常総会議事録承認について（2字削除で承認）
- (4) 平成23年度第1回理事会議事録承認について（2字削除で承認）
- (5) 平成23年度常務理事の役割分担について（承認）
- (6) 賛助会員の承認について（愛媛県岳連・白石崇氏を承認）
- (7) 平成23年度日体協公認スポーツ

- サ 24年度からの審判員、ルー
 ト・セッター、競技運営員の登
 録・更新業務について
- (7) 指導委員会
 6月6日(月) 出席者9名
- ア 5月の議事録確認
- イ 指導者指導要項について
 (6/8納品予定)
- ウ SC上級指導員検定基準（改
 訂版）の作成について
- エ 規約・規程の改定案について
- オ 公認スポーツ指導者の事務手
 続きについて（日体協事務担当
 者会議の報告）
- サ 義務研修の入力
- シ 指導委員総会の準備について
- ス 23年度日体協公認スポーツ指導
 者等表彰候補者の推薦について
- ・前川朝夫（静岡）は、静岡で受
 章済み
- (8) 普及委員会
 6月6日(月) 出席者6名
- ア 23年度「ジュニア登山教室 in
 立山」の下見、準備について
- イ 中高年安全登山指導者講習会の
 準備状況及び実施要項について
- ウ 第50回全日本登山体育大会
 （福岡大会）について
- (9) 広報委員会
 6月6日(月) 出席者6名
- ア 『登山月報』6月号の編集について
- ・神崎新会長の就任挨拶
 - ・23年度通常総会報告
 - ・故中島龍前副会長の追悼文
 - ・山岳スキー競技小委員会報告
 - ・UIAA 登山委員会報告
 - ・Mountain World
 - ・ジュニア登山教室の案内
 - ・自然保護委員総会の案内
 - ・JMA
- イ ホームページについて
- ・登山月報の公開（カラー版から
 3ヶ月前までをPDFで公開）
 - ・バナー広告の掲載料について
- (10) 遭難対策委員会
 6月8日(水) 出席者8名
- ア H23年度遭対委員総会・研
 修会の準備について
- ・6/25～26、奈良県明日香村
- イ 全国山岳遭難対策協議会及び
 山岳遭難シンポジウムの準備に
 ついて
- 7/7、国立オリンピック記念青少
 年総合センター
- ウ 講師派遣について
- ・23年度三重県山岳遭難防止講
 演会：7/2(土) 三重県県庁講堂、
 西内常務理事

- ・安全登山研修会講習会（新潟県
 山岳協会）：7/2(土)～3(日) 加
 茂市ビジターセンター、渡邊常
 任委員
- エ 山岳救助隊保険、短期国内旅
 行傷害保険について
- オ 強度試験について
 9/3～4、国立登山研修所
- カ H23年度講習会について
- ・夏山レスキュー講習会（9/23
 ～25、国立登山研修所）

2. その他の重要事項

(5月6日～6月8日)

【報告】

- (1) 朝田美佐子事務局員（嘱託）採
 用 5月9日(月)
- (2) 山口国体第1回基準会議
 5月14日(土)～15日(日)
 於：山口県セミナーパーク
 寺内常務理事
- (3) 平成22年度決算理事会・23
 年度通常総会・第1回理事会
 5月15日(日)
 於：岸記念体育館 田中会長他
- (4) 文部科学省の現地検査
 5月16日(月)
 於：事務局 尾形専務理事
- (5) 日体協加盟団体事務局長会議
 5月17日(火)
 於：岸記念体育会館講堂
 尾形専務理事
- (6) 社団法人山岳ガイド協会通常総
 会・懇親会 5月17日(火)
 於：弘済会館「梅」
 神崎会長、永井常務理事
- (7) 山岳遭難・捜索保険の打合せ
 5月17日(火)
 於：事務局 三井住友・藤岡、
 瀬田、尾形専務理事
- (8) 公認スポーツ指導者育成事業事
 務担当者会議
 5月19日(木)～20日(金)
 於：岸記念体育会館
 小野寺、瀧本、蛭田常任委員
- (9) 秋山妙子職員退職
 5月20日(金)
- (10) 全山遭シンポジウム打合せ
 5月24日(火)
 於：労山事務所 西内常務理事
- (11) 平成23年度JOCコーチ会議
 5月25日(水)
 於：味の素トレセン
 中川事務局長
- (12) 山岳遭難・捜索保険の打合せ
 5月27日(金)
 於：事務局 三井住友・藤岡、
 瀬田、尾形専務理事

- 指導者等表彰候補者の推薦について(滋賀・松下征文氏の承認)
- (8)国体功労者表彰対象者の推薦について(該当者なしで承認)
- (9)世界選手権派遣選手について(承認)
- (10)国体山岳競技規則集のダウンロード案について(検討することで承認)
- (11)報告事項
 - ア 会計月次報告
 - イ 平成23年度全国山岳遭難対策協議会開催について
 - ウ 文部科学省実地検査報告
 - エ 国土緑化推進機構の賛助会員退会について
 - オ 長野県山岳協会の件について
 - カ 救助隊保険・短期国内旅行傷害保険について
 - キ 公益社団法人日本山岳協会定款(案)について
 - ク 23年度自然保護委員総会開催要項について
 - ケ 日体協・JOC100周年記念功労者表彰について

4. 役員等の派遣について

- (1)第31回日本登山医学会学術集会 6月11(土)~12日(日)
 - 於: 国立オリンピック記念青少年センター 堀井常務理事
- (2)全国山岳遭難対策協議会幹事会 6月13日(月)
 - 於: 文部科学省 西内常務理事
- (3)JOC 総務委員会総会 6月14日(火)
 - 於: 岸記念体育会館 尾形専務理事
- (4)神奈川岳連・インドヒマラヤ遠征隊壮行会 6月15日(水)
 - 於: ワークピア横浜 神崎会長
- (5)「山の日」制定協議会 6月17日(金)
 - 於: 労山事務所 尾形専務理事

- (6) ISMF 総会 6月17日(金)~19日(日)
 - 於: スペイン・バルセロナ 笹生常任委員
- (7)国際委員総会兼海外登山遭難対策研究会 6月18日(土)~19日(日)
 - 於: 南アルプス市芦安山岳館 内藤副会長、佐藤常務理事
- (8)平成23年度日体協定時評議員会 6月20日(月)
 - 於: グランドプリンスホテル新高輪 内藤副会長
- (9)長野県山岳協会との協議 6月24日(金)
 - 於: 松本市 神崎会長、内藤副会長
- (10)田中前会長慰労会 6月25日(土)
 - 於: 浦和ロイヤルパインズホテル 神崎会長ほか
- (11)23年度三重県山岳遭難防止講演会 7月2日(土)
 - 於: 三重県県庁講堂 西内常務理事
- (12)安全登山研修会講習会(新潟県山岳協会) 7月2日(土)~3日(日)
 - 於: 加茂市ビジターセンター 渡邊遭対常任委員
- (13)平成23年度全国山岳遭難対策協議会・シンポジウム 7月7日(木)
 - 於: 国立オリンピック記念青少年センター 神崎会長、尾形専務理事、西内常務理事
- (14)山岳4団体懇談会 7月12日(火)
 - 於: 霜月好日 神崎会長、内藤、八木原副会長、尾形専務理事
- (15)日体協・JOC 創立100周年記念式典・祝賀会 7月16日(土)
 - 於: グランドプリンスホテル新高輪 神崎会長、内藤副会長、尾形専務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認: なし
- (2)指導員の認定承認
 - 1 上級指導員(アルパイン)
 - 原卓也、正田範満、石倉昭一、室賀啓希、岡田修、岡野次男、鈴木百合子、松本善行、矢田実、金澤和則、板橋秀吉、安田有秀、内海正人、北村孝、福王子啓子、木村直子(以上、埼玉 16名)
 - 2 指導員(アルパイン)
 - 内海信、藤森久美、布村英夫、門出軍平、柴崎英保、千葉弓子、内田文子(以上、埼玉7名)、渡邊美智子、土村啓明(以上、岩手2名)
 - 3 S C主任検定員: なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等

8. 連絡事項

- 1 平成23年7月常務理事会 7月14日(木) 17:30 (岸記念体育会館 103 会議室)

編集後記

諏訪の友人に誘われて霧が峰へ。晴天の下、満開のニッコウキスゲの海の向こうに残雪を頂いた北アの稜線がくっきりと望まれ、正に絶景! でも、美しい花は厳重な電気柵の中だけ。在職中、中学生たちと歩いた山路を辿るが、都会っ子に「スゴイ!」「キレイ!」と歓声を上げさせた一面のニッコウキスゲは何処へ? 金の砂を蒔いたような稜線は夢だったのだろうか。(広報 本木 総子記)

登山月報 第508号

定価 100円(送料別)
 予約年間1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成23年7月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395